

令和7年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立松永高等学校	対象となる主な学年	全学年
取組事例名	「 個人面談 」～共感的人間関係の育成～		

◆ 生徒の実態及び取組を通して育てたい生徒像

生徒の実態	取組を通して育てたい生徒像
<p>本校の生徒は、これまでいろいろな成功体験や褒められる経験に乏しく、自己肯定感が低いといえる。また家庭環境で悩んだり、友人との人間関係を正しく構築できない生徒も多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分も一人の人間として大切にされていることを実感でき、学校生活のあらゆる場面で自己存在感等を育むことができる。</li> <li>○お互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活を送れるような風土を、生徒自らがつくり上げることができる。</li> </ul>



◆ 取組の具体的内容

取組を実施する意図及びねらい

- 長期休暇後の学期初めに行うことで、学校生活への不安を取り除くことができる。
- 教師が生徒と個でつながることによって、生徒が大切にされていると感じたり、見守られているという思いを持ち、安心して学校生活が送れるようにする。
- 教師が生徒側に立ち、共感的な態度をもって触れ合うことで、広く深い生徒理解ができる。
- 生徒が発するわずかなサインを見逃さないようにする。
- 生徒の持つ興味や将来への見通しを常に把握することができる。(キャリア教育)

取組の流れ・創意工夫・生徒の変容等

- 年度初め、2・3学期の初めに、担任と1対1で行う。
- とくに2学期は長い夏休み明けのうえ、まだまだ暑く、学校生活のリズムに慣れていく目的もあり、面談ウィークを作った。(今年度は40分授業にして、その後面談を行った。)

- ・生徒たちにとって学校生活において最も大事なことの1つは、心の居場所づくり。現在の友人関係やクラス内の居心地などを把握しておくことは必要不可欠である。  
【安全安心な風土の醸成】



- ・長期休暇の間に身の周りに何か変化が無かったか、クラスの中や友人などとの人間関係、その他学校生活全般において心配事がないか丁寧に聴いた。【自己存在感の感受】
- ・1年次の頃から、将来についての展望を話し合ったり、興味関心の変化を把握したりした。【キャリア教育】

- コミュニケーションをとることが苦手な生徒や、友人関係に苦労していた生徒たちが、登校する楽しみを見出したり、友人の輪が広がったりした。

◆ 成果 (○) と課題及び今後に向けて (●)

- 生徒一人一人の悩みや不安を早期に知ることができ、それをできる限り多くの教員と共有し解消していくことで、良好な友人関係や雰囲気の良いクラスを築くことに繋がった。また、担任との絆が深まり、日常から生徒が安心して相談ができる関係ができた。
- 今後は、教員間だけではなく、SSW や外部機関との連携をより一層強めていきたい。